伊勢物語

中

特別
へ12
4581
2

保中

宮内庁書陵部

保元物語中

仙洞ゆかさたまひしんとの為義をめして
うせんのたまひしいかゝ申すべきそと
おもせられけれ判官ゆかの為義
みくさよ来たりけるうまいかんと
あをいそちらといてゝ
うちひさいどの御事と申すいて
せくわしくこそとこゝろぬきこと
う西のちらんふとりよりてすでうを
ぐくけんてゝ世ろをぬりゆふ
ばをづふ京都いまをいて行ゞ

とりくれば大原の義なりてうくの
ゆきもうもんをうるいへれば筆
とるまなりいとうすいあ
ふるこゝぢ波せんずるこゝろうん
ちうといくくらのうんをふ
あさみちゝとおれはせられそれど
庭ふひざまづきおかせけそ
海ゆりて海ゆりいそわたる大原屋むしわ
どころ新久とうじて内裏のあいき
見えそまるまこれたりよりはとまる
新うゝあまこゝりゆへさう年
のていこれとうくいまとそむしわ
ゆりもしとゝ海ゆりあるとゝくみ
とゝるどゝこれどゝはりそもも
あるう新うくあるきいりてゝう馬れ
ゆくとゝゝゝどいきしはきえばあ
まそゝろきみてゆゝよまいりあ
あふもびゝゝやゝいはたせいん
うゝどくみてゝひゝそやゝゝとゝそ
移じ三条河原みゝゝとゝゝそはく
あゝゝゝゝんのみのゝゝりのうん
とゝゝみゝるゝてゝさうゝゝゝと其時

為朝かくきれのうちとうんてゝいふ
きゝいくわゝせどもとんてふきゝいて
とのゝ判官ハまことうれしとも
きゝてゝうんでゝうち為朝ゝうちいつさ
ハうれしとうけんすうまかるゝに先年
みゝうんかゝどうゝ我つゝうふゝう
ゝ今度よとゝそはゝ為朝ゝきれた
けく若ハうんきうんよりいうんとあい
ゝもけうゝうみゝ為朝をはゝくふ
いゝきれゝ判ゝいゝせうゝびうれ
のゝうゝいふゝうゝそゝうれゝうれ

なゝくゝとうけゝうゝせうひうゝこゝうん
ゝうゝうゝばいゝうゝひゝし為朝ゝうゝせ
ゝせゝひゝうゝぎゝ百ゝゝたゝうた一ゝう
にゝうゝゝいうけやゝゝうて見ゝまゝいゝ
むゝゝうゝうゝうゝ白ゝうゝ白ゝ
ゝ為朝ゝ射頼方ゝ年ゝまゝきゝゝあふゝ下
野ハきいのゝうゝあゝあいゝうけゝ義朝ハ
ゝうゝんのゝうゝあゝまゝうれゝうゝうゝ
ゝれやゝげゝゝうれゝゝうゝふゝゝなゝ
ゝびゝかけゝけゝうゝゝうゝんゝゝゝゝ
ゝゝゝなりゝうゝんゝうゝうゝんゝゝのゝ

のくちかたちる屋とかくしん事なりこと
りんのやうなるをそこにてふもじ
すりのやうにてうけあるようかもぐ
うやうくいけ大将軍のうけさを
給よあるきこれしてくらひのようそて
ありあるさうくれば加くるみるとこば
事蔵やる清盛おかひのみぐのみ
のりんかちくしもやくぶりんとばいく
かりくんかくかくれんぞあんぐうを
いぐうふのくせ給へうりは宣旨のは
給ひあるさのくきてくりくるみく

山門ハ結ぬ八いにを為朝とりのかくめて
くいへであ蔵やるこハいふそくられ
くりのかくくくぐさむふれとて光く
ぬくりあくさのくれらぐくふ
伊勢国の住人古市いどうしやかを
給れこくくハいくよいくく新子
こぎこて結ぬの八郎ちん光也
てこれりんとばいくれくくの加くく給
ひくくいやうんかくりは安蔵寺殿
八郎ホ伊勢ぬハ住人古市伊藤蔵こ
くけ給ぐこくく伊藤ぬ伊藤六とて

あひちかふうちうの為
朝臣ぐらをさへ清盛とどこにあるこ
かるたなりつぞそのゆへ平家ハうん
むのとをといへどうきうそんをほうれ
つまをんでハ清和の門すゑ為朝まで
ハ九代よりあるうきまつちうちうてす
なりとをつの門ふかばひさの
けといつ伊勢国をしけうはこれをはさう
しれいうこはこれおかしうおもふの門
ふうかの光ようをとをれそま
つていりのとをのゆへハ伊勢ハ国を
ずをつのうだたうちうん中野
さうをとかてうてもうをとうさ
いよあけて作かけつふかう源平あ
家方をのはくさうて朝家ハ寄
しそれりますなふのせもうをき
ををつの門ふのををつとうをを
むじの門ふのををつとうをを
いくうふやうをををいつの門ふ
ハうるハやハをんつハ方ようをを
ぶうををようひいそをるハをを
伊勢国ををハいうをむをうが

さぬへそれてゆくさき為朝屋ひとつもとか
らてきよしてしまりへどもあんぢが
ふてしのうちうちひるれば屋一あるを
ためんどうぞおりひでふせよとてはた
きかてとりてはいうひいそひの
うぐいすかつや伊藤六ぐうちひのひき
あらもとはしこうちうちひとを
就伊藤めぐらひの神うちひくそ
たちうちうち伊藤六さはまふ為
るとは伊藤めてきみんびとうせぐ
おりあひくいうちうちびとうてな

あ京郷あきのくれまいりく
伊藤六ぐうちはぐうしいとはまさ
いうせんうやはよいぶんうるうき
ちうひとうそんでてきせてうぐ二うを
ぶうちいぶうふうきしおりひてうが
うう為るもんくく伊藤めぐうちひの
神よううひてはぐやいんをくうちひ
二三つあうしさはうあひんのて
をうふひうぐうけあきのう
うんてうさやうれすあうんきう
矢はぐひうやくこのやをいうちうん

あ[illegible]うまでぜんぞ八幡太郎将軍ぞ
ゑ[illegible]けのうぢすすめてう[illegible]ぞ[illegible]
まひこうまつ[illegible]と木のえぐふうけて
いとゆ[illegible]りのすまるねぢきは
すとやあ[illegible]ちゐふみのりん[illegible]
むとうせんでとうけゆ[illegible]
てことなきものぐかめ[illegible]
うひくせんゆ[illegible]ひぐのりん[illegible]
やこの治ひそれぢおりひきたる郎
あぐきたなひまのすりれと
おりひてれすもせぢひあ[illegible]ば
ちりあ[illegible]
ちうぢ[illegible]
しひぐ[illegible]
ふれ[illegible]
ぢて[illegible]
ちひ[illegible]
ちゐ[illegible]中勢の猛童盛[illegible]
きたひれかせとうけゆ[illegible]
ものれゆこやとうひるひてこと
ハたれぢこちゐ[illegible]むひ[illegible]
ぢんとけくやう[illegible]童盛よとれて

ふてとかくてのとけきんずりゆく
てあらのかきのひくまるさう
わもだれまろひそうれすそうれ
りのうちくろをきろけるむま
ふまろぬくつまんりろをそれ
つまくろくろぬかますみあく極武
天皇ろ四十三代りうんごやうぬ
きんやう光威うまごあきのうきよ
りうぐちやうりうづうさのやう重威三
郎り稱ん十九さい軍ふこれそけぬめ
ゆておめひくうけあうまあ藤ち
おかきうふおぐろをあまけうまち
せうひうふあまとうぐめうやくうのうま
むうれぐ御ふとうれうまうさかりあぐ
ふけうろんちうぐとゆうぬかぬと
ちろよあきのうこれ御まる伊賀ん
國ん伯人ん屋ふ田ふふうう御ふうきうし
いうのまうみあでてゆけうあうれ
ううどのいのうのうふうとうれゆきみあ
ふそは一ゆよりひうんまうぐうぐ
ゆうぐゆりうて月物ふんとのぐうう
ち御貴ふと一うけうて月ゆうそま

つうんとそだて一ぢさとゆりそうあゆう
ふんのうちまうしたまうくあこがれ
自ら上ぜいられは自然ひんとそで
ゆうへうさぞこれゆきめくしたうさ
たゆされどそもきたりそくあ
きみとよりのいの八節ひん
へうちれうこの山ハしたりあ
げんもなきうのありまうえあき
ひうこうしてしふひんとえさ
つうれどういくきたきの所ふつきし
佐をびうたうやうたりと移りたく
こそんぐうくうにりあいさそしあん
ちとしぐわんやとくりつひぬ
まどもふんぐんなうありひああ
てなうあ半そいこんあまふぐ
とさしあうんされどきそしう
宿縁あさかくゆようきかう
とれたうふまそけきゆひて
さいごのあうさゆとみゆう事こそ
ありがくれきびとあひうん
てかくせるさいごのうまひとあん
ぢせうあんようんあかれよと

いそぎこのおもてこそ
うのりもあるとうろゆくやうにせた
まふ人のようきこそすつらしもかく
らんどろすしとおもひまよけてなお
ぼつかうにそくもまさってみ
ちうりちくとくとてをのかたか
うにでんたうしのかぐてそそうん
ずるあれまいさそとおのすふ事の
ありひあるしまうらねいるゆるる
とこせうふるひひそけめらとと
てうねぬひうんずうけるすそいうう
ねとおれくとおりひとせんぐと
ちうとよぐどさいごのはとはと
うまうあくくれそうけつきふわうう
つきそぐうちまゆうきくはうんのれて
まるうろかるおれぐうのまひこそて
ムあはぐこの屋のサはけうはひうう
ごあとうれゆきのあぐうぐうれうに
うりけるむしふうろとおく
それうちうあうんとあけて名のう
やうそのあうのうどもおもと
のかとうれくはうこれうぐ

是ハ頼政入道のこたいまうしのこと
いへ人頼政せんぢとなりくまれのは
三位ハ源義親をついこうきわ
さかりこうこうこと久しく代々の家
一山田のこうじゆきひでうまごなる
まこの小右衛門これうけたまわり山田
小こと惟行こうこ初ん世ふき
こくさせる清貫よみびんさんあふ
これまでそさいてうこそあいちう
ふうちうこれだ八郎為朝りこの
れとありいふやはいてりとおど
ちてそいつこんねたたりとせばこふ
はきそて一矢いあすはあうこれ射ひて
こて子とおこけこ安藤こ郎
ふのあうこよりのはりふきこと
たりこいひりそ初ぢこよつこて
ひのよ海ふけこれやうれいひやうどて
あんこうこうこのこちひのこちやうじ
れいことあいこ海よこてこあるいはた
ア三こちとぢあうこあけどこ為朝のく
びのれ〇あやうゆそでんて者のこき
こあとこすこうしこさふうどこや川六日

年一の内のうれをのふれ
ぢぐとでの屋をしくれば夫一つあるく
屋をんどうでたりうとそて
むすめのうちふちをあてひやどど
あつらへのまんまをとりこいたりる
ちひろぜんごれをさどりはとと和尚
物ふをてうまいつはけうとれをを
二人夫をつひくくひんくと三けりが
をぐひみんをゆくありうろんゆをと
ごかをけををるりまりさ
うをゆよれりそぐうる間のう部を
アあひくくびとをりぬこれゆきぐと
物りをうみいををれりとりひてた
ちゆあきて大殿の中へはをてアを
入れをとりふれの事をいぐを
屋ををまばをのあをていをれぬ
下野寺二てううをふひんをりを
ふふ雅物ぐりうもあいを
をれくぐんちんををりりがを
下野をのせいりをいぐきたりけ
をぐかをりやりんをりをを
ふ武をんきいれりをせをひを

あだんじゃうのみくらいは
をこれるよりとぶ鳥をうれそろしの
むさいやうそおうれあひらりとうつけ
のうこゝろをけうふんでうさるべう
やあうへうそてきとれくうせんそそ
そうしてあそこてゆうんそのりは
十七うハうみうそうのうこめそれりふ
つのうへうさうけうそうこうりれるれば
ふるのうちかうへうるれんどうへ
くうらうんむうしのうへうそをうあうへく
うちんまやハう海東のりれどうふ海さ

あうへきいそけうへハうふてうあうれば
とりんきんうそうはけいそんときうれうう
と強田たういう海大將軍のうけう給
ゆうへうさうちうそうあうりのうと
ておうそうあうさうれうだうかうふ
とうつうとうてうそうゆうりねううだうし
のていとうんうそうそ可きだううそ
をうしうせくうけりうんうそばいうあうの
かうへうさうせうのひくうは庵うんかうやハ
今日の大うやううんうりうけのうこれ
のあれうこうふうもうの二部ものうきうと

あれら八郎さそふ一家の家人ごとふ
き下野竜右ノ丸ちとまこそばちつい
ハやをしめしだるこびやうをひ
このけとおりをたちはんぐ福田あざと
らひくさとふ白ごろつ家ノ立
ふふちくめいとそむうを治ようい
ちちぎやくのたちとうてまもと
ゆり郎等ノたち形つ夫ハちうの分
よハくりたくめうんこうを治ひたと
てちりひいそひやうじどき形つ為朝か
ふだとちんとそゆちあかのさふ

こそろよひぐちのゆうされよとちはの
うちてぶくのたちつけのいちよまてて
ふいつけたりうあちとあちうの祢さ
ふたりの矢をいなるおるだ矢とだ
うひふぐりてうちとそゆこうとふ
ちたりこてちとくんのこれ矢ちうを
清あるしすふなをハどこまてくしそ
ゆりけうちかまぐう弓き清為八郎
ハサハきゆしもぐ弓ふしいはとちいご
と我ちひろうもぐぐうちよいうづ
ちノちりかうちやうよゆりてまふ

かりてしちとうちてこちらやうばら
ぞみけうちうハ幡ぢとい四人形
判官どのとこうしてゆきてさも
ばうもつあふのものどもちこ
そさいくとかくさきとゆせがんすると
大事ぞうん命ぢうかとて乙きのを
うただうくとしらゆくぐりーれ
てきさかくこさいたのちんよちつ
ゆんすいくとはりひれぐくを
くちうよこ町ぢくちそみけうけう
京都とのがりようちゆくうてこを

けどのまんふさいりてあふはきち
やあぬなひめふくそあくいつまこはぐ
うしやうけいくせくうぐあま
アの行くさやくどくよ四人とく
ちうけられいせくつぐうちよい
うばちちかくうやうまくれがいつ
まいくくつるふだあちうずい
世の中いまかうあていつくぞやくて
とけくのかりようぞそれくうト
かちねんてうこうぐの事いあく
命ぢ八幡とはりこくれくてぞ

さハおりひさぐらあれくまひてぐ
アそもくと義そのこてんよ大喜と
ゆりあれいらふ八十百ぢを出
日ふさうあるそのうあ百ふむう
ひくゆゑわとひうんすとうれありた
うとそうてんとゆりよそして京都を
ぐりよこそうもぐあるもせこてうと
ひぐへうそとうりわうりぐうハた
らんのぐりうきうこのうとばきう
ふんれりておいひみぐれみ人
つそうそせうんはりんとばなふうう

人のおうあられくうそかうりハ宣旨の
御使下野ゐる源義朝とものみれれ
まうき朝臣結ものいうあうとしこ
うこううけのうこうとうるぐう
きんぐのれつうひうそひうそあうわ
りふぐふひきうりそけうあれむ
ひうくゆうこのくはううのはうんず
れすうこうぐうわうんぐあ朝
あぐうううひてはうんむうゆうとも
かんずうりのうこうぐうのふううんあうい
ふあうのハすぐふくむうのちんむ

うくゆことひきはなすいふそ
のうへのはせんぐのはつひかり
はなは判官殿はは宣のはつひそお
ふくすはてきんぐ先ぜんしなふの
ぜうぬあうべきこそ平ろうもろ
ものこむものうへのはつかうぶの
うちあたれ大三やうぐんやこそんて
ろうちかぐこの三てくたれ
あたれいよものうのれぐ一夫よ
いとこうんとなりひてきたれぐそうち
はぐひくあたととこそふひ
うんとすうあ朝臣のうちあはりひろ
いくしと度のくさみはやうのあうこ
さむめき三ものやう三角ろうもう
はきやうぐいうんぐくのれさあぐん
どのとはきやうぐいるうきんぐんを
下野ろれとも人きれで判官殿わ見
せんこう(ぎいうんぐんぐだいり(ぎい
き内裏いくふかうはなはひそうれ一
人ぐぶりてうとけよ三人あんいくさふ
かうもはなひそうんこのこやうり
ぎうあくくるんぐうとはこそんと

ゆゝしくそしりわらはれけんとあり
ければつけれをいかゝしてそしつる
ものゝあるにこそあらめとおもひ
やりひくつゝひくうやとうとうとて
さうもんゝ下野ふ夫うゑをいを
こそまつうんとおりひくこゝにかゝとと
ゝびゝてはいうてかゝゝとうち
はうもてむとうゝちとひうをなり
ゝをうとをとおうておもきうけてひやうど
ゝうゝ下野ものうゝのかりゝ七八かう
ゝいけばうてうゝあうゝうゝ

ゝうんかんのうひゝくのあつさうすあうと
うゝおかうゝてはゝこゝはうかゝゝ八月
ゝけくゝれゝたうゝけゝちう夫八のふう
すゝくゝぞゝはりうゝあ野ちうふゝのこ
ゝふゝちとうんゝてまうゝにのうゝゆん
はゝえうとうゝて心ちとなゝはゝてうゝゝ
とうゝちひゝゆゝうゝなゝはゝてはうゝぬや
うゝて八郎ゝう野ゝくゝきゝてはうふゝに
ゝどうとうあゝゝうゝ八龍ゝうとゝばや
ゝゝゝ

さてはいかに三の夫よとのそはかきをふ
まるべきひとんそのうまいつるもまれ
ばそのことのきいげくうてもところも
さうしひとりはまんよいんどもとの
けれんとてきいのさたかそとうち
ゐもせくむさのうらとのきたな
しうをふかしてもうんとすれば下
陸奥のつぼ
陸奥のげふかふりばとわかひんかう
まるうごんかんのうとびのうげ（もよ
のくむうさうさぐれりのどもうけるや
ぞげうかうそのとたさうこの國の住

人大庭平太景親きさうけ
ちうそかあうこそうけおうう八郎右衛
門とまうこそ東國よりのどもう
ちあうのぞうちうしゆんせいのれ
とうもげやとかりのようそやかりのようかう
すあまりふ彩なきかぐふかぐ
そいげやとかりふかいうにとうた郎よ
ねうそんかういんかがうとうびくぐ
むどうよけう物あうんどうやうのう
けんふをようそむうらとのよ
なはゆんでふかうてうあげくと

ふかくひなをうつしてうぶすなふかくまつり
むるあそんさてうりうれいゆんでんをし
らせまとりかてきれをはらうを
わくるかりしかひるひるもひるまと
まれつ夫大庵年さうゆでの毛さ
ぐちかてきれふむしのかれる
とうしやハけくつちふた
ぐちうあうちもさしはりく
ちわうれ大庵ぐさ
まうさはりるゆとはうのけ
ちはうまりけくかた

へうちのさうはけうとあ朝るのうち
とひうちはんひうりよれと
ばうどうづきうそうれて
きうれ春ぐうはりひくうかか
どそふ見れこれのとはうる
おかしぬりのとうやはい日年一月む
のりれうりうづきりのそあり
はうあとあ朝いてあうりくそ
人ふいうれんどうめやとりあのの
れとそはうやさけうかけうあよ
とたすうんとそうあう小庵とうけど

とてもふりのとれぬものあり
どもはかいまてもたりけるいふ
はひらこそくるこそくるいそあり
こゝろもとしいまてくるはかいくさみ
あたんとそいそゆんとまはあふ
ゆくゝらもひの神をもつくいふ
やこのゝくいまていくさこふりり
ふんどてきみくれへられ五位が
かれてこちてきとも申せうんす道
いねこよきんとろ申はいはきて
そうこゝひ他人なりともうけあ
らん人ふあとけはきそういふ
きてよすそとんとふ三海ふきいふ
ちくいきやうくいなりはかりあるが
とをとえておくうあるいやういふ
はくあふあてとはかやれつまでこ
うけちこそたけはけるまはふよ
きいこてはかせられはこその今
まてこ世人よあひくそまつりた
ものあくいいこであるはあくいいわ
うはくあふふとなさんのこれこ
もはけあてふいくうもうるも

ありけるとき、いはしのちとせ
のすけたかすけ、あるじ
どもいとうしのひとへにちかくよばれ
とまりひくに、右兵衛督ぶせ三郎せう
ぶうちうあふぎうちひしちらし
いまうちうきしうしさうでんのうちう
ひかりの右兵衛佐とうい申してそのあひ
だ二番にていきをやとめて居まされ
まぢぢのびよりうちうれ後むさしの国
のちうへうこの十郎家忠うちうと
申ごしのよりひよりあげなりむさみ

ちうちうとそこそぢりぢりまうぢせ
年十九さい軍いさ程ちうそけばうまと
とそうけおうあり結ぬの八郎さうれと
ちうく金子十郎ちうまうたちなし
出ちうやりうれきやけを矢一ていお
とうむ事いやとうきうたなまどと
それいあやりみくむ弥人よやがゆう
ぢとれとやりふりのあうばかたきの足
むまうへみくいけどりふせうていうで
う間宮郎うをたりうわとそあい
てうけおうう金子をうをうへてもう

くしてアわうたびあひよりとやう
アこる間八三年あまりの大八ゆきこの三
ゐうりのみりうのこ八十九あなるむげ
ゆうりれきりふりまりさ
アとりむしりまりまりとりくりりんん
あうんゆりあてけりのりひの神を
ゆうんりりあひりぐりいりりりりう
どあふのりりのこ市まれとんくお
りとうりせ小ゆりてむりありんく
ゆりりのこりとうんりりりりを
りりこりりまのりりりりりりりに

とひきけりけくこ万宮りうりりりを
まりりけりまくりりりたりまりゐ
こ十御三りりせりりりりりりりて海へ
りりりりりりりりりまの宮りりりを
りくりひりりあのけりりびりりりつ
りりりりりりりりりりりりりりりの
ありのりりりりりりりりりりりりに
りりりりりりりりりりりりりりりを
りりりりりりりりりりりりりりりりぶ
りりりりりりりりりりりりりりりりす
りりりりりりりりりりりりりりりりと
りりりりりりりりりりりりりりりりさ
りりりりりりりりりりりりりりりりりに

うちうまいはやしこれはいまて
はりよりのわたくうちとりてうるをを
うしてはあの八郎のまへよりこれはあ
まをそきうちとりてはうちまをは
ひとくあくいやはいれいとらんとそか
けそうるとあ朝うしくこれはこう
うちうまうちうのとうとん中なをも
かりはいくさふうちうちうとん
とは東いけ国をとはうとん向はれ
とをめはけりんずうにうたをは
まをそはうまひうちうのこ十郎あ
うを名をきはめてすでふうまをうえ
あうしてきあはれくいのうちを
たをうあうをうきいはきへ
めんがくあれをまばはうとうの
かうはうあうはみえうはを
後ひうちの国はうちうへ国の後をい
の国の後へをかうをのあ郎ははきを
六郎をはうとうべくうけあうう
あ朝はまいのをはをとはうてづい
ひうをうをあはをのををはうびう
のはのとんをうてをうやをとうあう

あてがうさきをうつけのいをを
いねねをうはまよおちぬてどれ
らはりあひくらびとをせきこのて
いをとみくこの屋よあらうとてる
らはなはてあくくもきのさ
てどりそのちをとやとはうこで
ふのりてうけまうあをそ別面よをい
のもきあをもをいくれくもきれく
をうをくく下野の郡おうくれよの
年一人を員りのすをとをくど結のハ
郡ものふいをちをうはかの紀年

次文い世人だのをを小ふあそのをとをを
結て三町ど二町をうをどと文人新を
ふ名を郡にゆんでかのうはきくねそ
をすのを員てのをきのくをあれいく
の一人りを郡屋をとれをて三人
をあを事いあまをを一人をあどをふ
をあり屋あ称つきあまをびくを
ひをくすををびくをれをれば
をのはををかをれををとをたを
ん人をひををりんふ人をんいをを
屋をはををはくををひくのりん一を海の

ひやうごのうちまさむねひろ
いまのとけ出ないのちをとゝ
うひろれば法うあるべきを
ひてざうまふ仏おりて法をう
六条判官父子をんめいをとゝ
うひろきてこゝろ百すゝひろ
いのちをたすまじてうひろれいの
ものもなくゞとかんしばり名者
義為朝うよの門ぎをれば
きこゝろ義朝いろをうひくぎ
いろ使をとゝそゝうかゝえ法

えのどもいのちをとゝかつをん法
うまつりごとうのんちのまさいそい大
をうけそゝかふ海ゞ大出をう
けて法腸寺ちくこゝをんを
しかりうんどをまるをんちうち
よまうこゝうゞとゝうれなを納言
へ通信あゝやう清盛義朝ゆうれ
あきこの者をけうをひそ法
腸ちゞのうんゝ一月ゞうみゝ出進
あうあうゞしうくゝ大をうけくけ
うゝしらとゝい法ゝとそけうをれ

くらゐ五位にのぼりて
侍従の三位にくらゐ
をくりてなをけ
ゐ殺十町ふ
ひとりかれぐ
はくりのごと東
ふしてうりぬ
而よひかりぬ
ふ下しうれ
うをはひく
アのぶはは

みまいりてかくそきりうたたるのれ
ひとりまいをはるまいりて
かくそきりうを義之井寺のかく
れのびあうべ貴よりかれぐ京りを
いぞうをはひくを義以下のはくりの
どうはりふまりうを義のじ
まりをよりをれぐそりを
アありをくさしくをひをりう
ものをれふのびうんを
ありひうをはひをはひくを
みをりゆきけり六条の判官はきて

[illegible]ゆきさくりその日結和
の節ぐいまつやすぶ兵庫さいしあや二
ゐ十八さたう矢つさ[illegible]ゐやや
一ゐ[illegible]二十ぬぐ[illegible]の四二すさ矢な
[illegible]ハ下野ゐかぐ[illegible]の引いつけく
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ん[illegible]
[illegible]屋一ハ大庭平[illegible]ひざ[illegible]
ゐ矢[illegible]二ゐ[illegible]十三の矢[illegible]
きゐ[illegible]ハいそ[illegible]
のゐさやぶ[illegible]ゐ[illegible]
ぐ[illegible]ゐ[illegible]ん[illegible]

さゐ[illegible]ひぬさ[illegible]ん[illegible]のいさぐ[illegible]さい
ゐ[illegible]ひゐ[illegible]れ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]矢一ゐ[illegible]て[illegible]ハは
ひのゐ〇ふ[illegible]そ[illegible]やゐ[illegible]さた
ぎぐそ[illegible]ぐ[illegible]ちのいぐゐすけハ
けぐ[illegible]ゐとゐ[illegible]ぐ[illegible]ハ
ふゐ[illegible]ハよハら[illegible]たつふぐひき
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
さ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ゐ[illegible]
ぐ[illegible]ゐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
ぐ[illegible]ぐ[illegible]ゐ[illegible]

[illegible]とんでおりゐるものゝ丹右衛
のいでゝとゝさのゆせてまつて神
祇にゐる[illegible]ひとゝ[illegible]
[illegible]大夫家弘これを見てそまつ
[illegible]さにより[illegible]辛る助忠を
[illegible]びゝてこいゝまつてさたゝ
きやゝいむゝまでば[illegible]あふ行き海
[illegible]あゝ海やゝて作馬ゝ[illegible]の
せゝてまつんゝとゝれどゝかふゝ
小屋ゝゝいまゝゝてゝまつて行き
どゝゝとやきゝどゝゝれどゝれ
ゆゝくゝもゝえゝさゝせゝまつゝて義人大
夫つゝのゝゝゝゝとゝゝゝゝくゝのゝ
ゝてゝまつゝてさゝのゝゝゝゝゝて[illegible]
[illegible]のゝゝゝあゝさゝゝゝゝゝゝゝよの住僧
とゝゝゝゝゝれどゝゝゝれゝゝゝゝゝ家
いゝまゝゝてゝゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

これよりなりてあひうとして三井
でらもそのびさもせつてやられども山
さぐられいるるとばとるれさもりひそ
ゆかりなまじかるる屋くしみえ
さもなりつどれとりふけう人ゆこて
とをゆ神をひきるじきられども
うふこもこうびゆ山中をゆせつじ
ありられいるるべきゆる屋くんを
てをのくさこれりうきびくゆ
ゆてゆこうるゆるひこりあを
さいくんとゆりゆられれかあ竜

こりうこのゆりゆをこれあを
ともふられていくせんといさこゆ
ゆ三井寺ゆかくこゆあるは師
ゆいびくをこりてこゆりこりうさい
こもくくまばはこりこりこりを
こもゆひくゆ人やありこゆられまば
なまじくくくんくゆふゆりゆ
ゆをこをこびふいこもあるくんをくん
ゆしかりゆくんをゆられこりう
ゆゆこりをゆこりこもあやあひ
くゆくんこりゆこのひこりうさ

とりけるとばいはいうるの爲ともお
がしあるぞうしものおりこうとものう
ちくるまをいさづみあれはけうすそ
ねくもふびんなれがもいはいうひみし
なふ事ともちくしなさ事とおりふ
ねーいはいうくくいはげうこうしおちゆ
こうてあるとたとはけうとおれかせうら
きたる程ばけくりのがどこのれあるさは
とかとをさりいうせていはげくへうゆう
おちうぶまうもあくしはゆくうこうは見
いうせてこうそちうこうはゆうしはは

はあうとうれはさうふおりふうんりのは
ううそくまがくおゆまどもあるを
とりまるりくうはけくかまおいうくう
ふといふうとはいのちうりうはうとはは
いくるるたなとはけうんちうをあひ
ぐていうるのふまぐくうはまとあるを
とおりひておちゆはけくおられなる
うくりのわるはおおりはせうとはうう
てはうとにはあるりはせはひくこと
はいはうりうとはいのうりをばうとうる
くそうくはけうんはちくおよあるう

ゐれどとてたうきゝ山ゆきうことと
ふのこゝてまちろ者をばこゝあ屋ま
中よりそれこゝてこゝりゆくすゝふ
みとゝゆりひゝとゝどゝあゝれゝろゝ
こゝしてゝちゝくみわゝまゆゝ氏ゆう
ちゝうむゝさんなゝまゝいゝ海ゝ家弘光弘
なゝゝりゝゝゐゝろ東弘家氏ゝゝゐゝ氏
きゝゝゝまゝてゐゝよゝまゝゝとゝきゝう
ゝゝひゝゝゝてゝかゝゝてゝゝて自氏屋
ゝゝをゝひゝゝゝろゝ西家ゝゝだゝゝとゝお
ゝゝゝゝゝれゝゝゝゝ海ゝゝゝゝゝ

いゝゝゝとゝゝゝゝゝとゝゝゝゝれ
ゝゝ法ゝ寺のゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
屋ゝとゝすゝゝゝゝゝゝ家弘ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

屋のうしとてとりるしお掘ふい
ぐりとくとありやとれるまてばはとて
とはうとうとうとてあとうとうの
一人りりきみふまでとさとぐふよ
兵士通ハもうとれはばめ前
どしい海ハ東あくれうくんうとそれ
章なうくべきとこうりふれハはふ
みぐりとせふあくさをはうどいはを
うくやんうりとくまうとうけ
なきりのごとはありうとはふとて御
海となぐさをのひうり高弘光詠

らうあるはうとはうまうを
どくそあくありとうまあけうば
うくあらまとていうれうめとうと
むとりひあうんのううあとれふ
まけさハぐごとさいとと年とて
あとすうさいうはりうとて新
とでおあけねちあんあうくる
しまりてきうくあそうだるあう
ちハいくをれはゆるすすう
さいりてはううちなとをすひ
く墨とやげりやくありうる高

弘和元年せんとうとなりふぐちふ
せいしおかせられそれいせ国とせど
仁和寺のはしもろへはつてまるべき
うしあんふいとせいさうべと
おなせてまたそれぐ伝わるどのつね
ちうとそうちきさいせくい
ゆとうてきてこ庵とたちところ
うそ出家してぐうりはしろふはちち
じのうそふ島羽れふいうせのひ
そう清盛義朝おうきせあはう
てはあやきこうひるぶうてきん

わんいたりあ一ぬしのうひあうや
それいはくりのどもせさいりてた
づうそまつうそうせうじふかうき
こりうこうきこ市まこい義朝こせ
むうひくぐのとうちうぐんそ内裏へ
ニうやうそうそ大へうけうぐきうこう
それたニんせいやうそうはむうとのの
どもこれちゆうきあるきこのろ
というこうきふぐうこうのうすうあん
きふこうにりてがうんとうろばり
こそこひうんこ親治のこうぐいみり

とりこれられだ大とどうけどして
寺中とさうぶ者ども多くきこ
ふ世中あんどのうへこのところふ
ゑこゝろ方ちりこゝまれ五郎師
なり清盛義朝とをさいてけり
ゆくとうとどでよくいさんけるもつは
ぬ世界いなかりひとりれい信西
とうそ法りせらるれ若いちくのれ
かゝとつゐだつのでこう神ありうたこ
うふといそふつゝ孫ゝみけるべれ
おかせゝまとられだ人庭ゝるひざ

ぬついて宣旨とうけゝ海ゝちいそぬ
ちんどのりきんまるりちき事は
とゝいひゝ神明ゝ祭りのけゝと
けゝどんゝゝ三四ゝとけゝ
日吉ゝまいりのゝあり給ひ
きさゝゝそのゝちは月蓮けゝん
ゝるとあそどてゝとの方へそま
つれゝまてば神威あゝそ
けりかんゝとゝどゝきせいとゝ
ゝれゝけゝとゝれゝいさんと神の
ゝけゝそゝとけゝそみしむゝ永年

み將門ゞ八ケ國をうちとりてこれを
せあのゆゝとゝのゝしゝうゝをゝ
しやへゆゆりせらもてゆゝうゝとべき
うゝをゝくゝもゝしゝゝゝのゝゝ
ゝゝゝしゝうゝゝゝゝうゝゝゝゝゝゝひ
人民ゆゝてゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
坊ゝゝゝゝ僧正宣ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

仰よりて経文の通ふ[illegible]
ときこゝろえられぬ[illegible]
きゝ京のかぎりあり[illegible]
うれはんとてせんちゝ僧弘
範信とうくわんつ[illegible]
ぶつの法信寛[illegible]
めされく仰ら[illegible]僧
とかくらひく迦国の[illegible]
ゆ[illegible]
とれはせ[illegible]
[illegible]僧迦国[illegible]

[illegible]
ゆ[illegible]
いたりたくそこの[illegible]
いきこゝろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

國とおもふ心を世にぐしてうち
まもりていぐしぬるかなしさにふ
かぐるまくけしとをぼいたりしてあい
アしとたづめたりうるかぐ
めとてこしらりたりたんこうの主
やうみとりそいたりたんどもをぐ
おかせたりたれいうまてうあとり
ひさ海づこそ知りたりけるかてい
ぞめたんの一文重仁親王
東あとまぐりせんごとうなる
ひとり西廂東たりのりて新
院の内ゆく来ぐるとせんとて
仁和寺にかうそ海まりうしも
りんのまんとしゆりをを
平判官重俊あやまりそれうり
とうめしてまりてうの屋
のたりれりたんうるもを
あるひまばあ嵐のたぐりの
ふりていぐうるりぬうれ
祇ぐ文ぐりと大角きりんとう
ぐうれりんいぐりせりうせる
しおかれうれるまいやぐて平判官

重盛ニ
僧正覚教のたまひけるは
はしめ
あらんずきこそ
あれ
あまたの
ものの
ものの
もの

足利判官義康ハてんぐのとゆうれ
ゝりとしてゝよたるゝいきごゝろ
ひとりにんにん組しごのまんぢう法師
うちごめてゝりいろれいたのかう
たゝかひとしたる所ゝ所ゝ打
取てんみあふぐちちゝまるあ
らどそれいかんゝとゝかひて
うてきとたいしぐゆのぶ国と名
ふゝんそのこちごくふいすりこそう
あゝ海りゝものうゝちごめいとそ
むきこちらぶいごよりこれわれ
て義朝一人ゝゝゝよりてうひせんを
ぶゝまゝ現生ひちゝよもひそう
とひゝこまひゝよちゝゝのゝる
こをゝまゝ法ゝのゝたゝゝ
みさゝゝゝゝゝゝゝんゆゝまあ
うゝまひてゝりこゝゝにゝて所ゝ
ゝゝまゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
義朝たる以よりゝ七月十ゝゝまて

さえだんどのきいちうぐんこくれさせたる
ぶとたぐ[illegible]りせらるる事とそあるられ
の遺れをいといとぐ見さいてせくれ
やとくるるぐやとおりせられる事を
けてしにいまの人くらうやたいめんしあ
ぶとそれのろ海ようれぬきいてせく
きうれをとくせのうりぐにまるう堂
の南大門のさんとそは師東寺めん
おきくうてあやしくそ御らまと
とめくそまつうれぐ為ら出玉
ふいおきよりとやうくるうんぐゆか

きれうれぐとは海梅
津のあんとそこぶぐとうてのせとそ
まうこふとくるおりひくそまうり
てやうくるこのびくはのとうぐ
と東川ようきこ海ひくはこる
のとけ修成とはうこいとその遺うり
やてうれはふいうんやは為ぐさこて是
まそくそいうせのうひくくこやられ
ぐいうぐきこてしんさいうせだやこと
それうぐはくあぶくあやりのん
うきこはるのみぐさとたぐさせのうひそ

たふゆへよう入道かんわとやう
なきを入道てみんとおりあるのを
こそとゝみ氏の長者とゝのへの人
まいりやうちやうちやうもんさるのうす
やあうこれりゝぬうんかんふん
ぬんまたゝかりあうそまこうりゆみ
とりくとゝかしきこうしけうん
かうゆきこいつゝをしてゆるまゝ
とうゝこせうひそう佐藤うをりま
いりて山やうとゝは山きたゝんね
けうらうるゝこたまひてけうま

きこのとうりうせうひくはこのさ
こくとくいきこせうひくふゝちを
こ寿あこせのひそうはうたなうはを
たうりうんてゆそうかりあ
まいはくこまこうてこうゝし
こかわゝしゝ東あれこうこち
こ白ゝこうはこうこんたまはちく
律師こいつんこうこうれゝふ
こうこうこうこうけんゝしこゝ
こいつんこうゝ行くはやうこう
これはいこうきこうしゝてあふなこう

このはなりけるまやいたなりけるはこ
ごろごろやとそはやとてようれのせを
あまりつりてやうしくふあつひたて
よつまでとゆうこのけとどめまいて
じそ弟子ぐんけまらくようしてあま
まはんしふげるゆがめてひりのれ
えんげんぐさいりてそはころめさ
きくいやうんけたくかふやれは
うちうふげるをよりかるよ
ちめうれうはこまきさはま
えび七月廿日和州ふのこ屋よ

えいまこそさつりこまり四日の
うまのこえいりふかれさをひ
ぬさそとあうぐきうれいやぐそ
その日大和国そうのこのこりうをこ
むこんあのはこ脇よ去葬ナ三
こそさつはやこれ七ぬぐりのよ
えんげんうくぐうとけめこそて
これうみぐとまなぐつちうぐふ
こそりふうれ義人大まつのうは
さいごのはとこそのうも屋と
けへ今九のはまへようしてこや

わくこれさせのひてひとりとれなあふ
むざんやふさりゆくしまりあくん
どくんとゆりもてくそんぐらはく
みいくふくりくりくゆひはくんわ
のうやうゆるはよつけてもなくの
事さくそんぐはゆひはく
めくいはまてみゆりのと屋くの
ゆくとに事くまくんすわくや
はくよくんぐ白何石（まくりの京
いくる言うありはくんたれくまく
るべきくれ中みうくくん

きくんそ中　去前二人のくりめふあひ
はくんすゆくふくふゆくたくりくた
くれ考ふあくりくん根吳國の事
とくてふい漢のる狙ハ三人の翁とも
りさげてくくトと治のひくくくも
淮南のけいゆとくくゆるまくふか
くくていのくとくるくんこくれくよ
ゆくくくくくはくくくよくんば大石
とくくくくくの事虐ちたまあん
てはくまくくくくくゆくくくくく
ふはくれ大ごんくくめくたくく

八ちまんふいうきまで八人すりまねび
氏の長者とぶらひ給へるのさ
きうりかはすやあうの形きう
うやそぬることくへなりしきこと
漢うえ百里八月のもんこうこうう市
むうせんこうにいうこうきうつ七世風風
うりあるりさたる舟ハ一どゆうそのう
いうまうしうこうこうこうしゆべきあるよあう
ときうばさいかうるいうこうとと
あるよさかけあんじむうにあう
ときうだたぞうしたうる長出

たそよいうこうとたなうう弱ていむう
とうこうこうさんをはのざうよとこ
うこうはうといのうしうふあうだこうう
のうしはうひあるいうしうつこのむく
ひうて光の仏とうるやうとうんこう
かうゆくすたとおうかうめけばけく
沖うみうしすうせうひうれでう
百年のあうりうる男女のうこひ神を
こうぐうめたううれたる舟うし
うひうひくのうう獄うるんうん
もみうこうこうこう帝國も仏国も

まい者さてくぐ自ととろ旅をんと
ゝせ世こそぞつてあ
ども春日大明神おんくゝとてさた
をひとへだちくゝとよわどたゞ者ハるい
うゝせろろくの家るしまきそでん
きの内ゆんのせんでゝと家くさつまゝ
も人よゝとゞしれおいのゝと世よゝたゞ旅
て海くゝたゞゝと神るり仏事れん
そふしてせいのゝ形くくわまを
りふゝとゝるゝ春日大明神のれ旅
宣ありゝ海くゝそきゝたゞ十三
日ふ為義ゝんあるまゝいるゝ
ゞけりりたなりゝとゝるれる
ゝりときゝゝえゝれ宮長ゞゝよ
しひくゝあくゝとけゞゝれゞ天ゝ
しゝるゝゝくゝ山市ゝらゝせゝさゝい
ゝけるゝたきゝのゝとあんるいゝゝ海ま
すてけゝるゝくゝみゞゝゝと入ゞゝゝ山
者めりゝゝふ海ゝゝくゝおい世ゝゝと
ひゝれゞゝゝんゞゝゝゝゞゝゝゝて者よ
ゝりゞくゝゝゝいゝゝゝよゝて清風ゞ
即ふ為ゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ海ゝゝゝゝゝさ

まどをつかふ云家にあるを
かし武家のいきどをはつきてあり
ゐるをもつて御所ゐやどをはきすま
ゐるとそ　あひゐる同ゐるふをぐ
しは坂本ゐるひをはきんぐんを
大津の主家をやきはらはれる
ゐる義をもつて　ふのやそあづかりて
ゐるときをしてかり同中
ゐるを人をもつてげとをかりて毎日
義人軒伝ゐ広親所ゐをはのゐ
人をついゐるをもつてふをきゐる
郎ゐどをゐる人をんをみをうひ
をれどゐをゐ物をきをのゐをれをそゐ
ゐる同日ゐ京ゐ東のゐる入道をぶ
の大東りのゐを入ゐ義人ゐ東ゐ物のり
ゐりをこをれをゐ物をきをまをゐ
をゐるをゐ物をふりのりゐ物のり
山ゐ人ゐ方衆のゐひをれをどゐすの
ゐをりゐをりをゐりゐん入道
院ゐををしをまりゐ人
法ゐゐをやをりをきゐ人ゐ
ゐをゐのゐりゐをれをかりゐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

三河庶子吉夫ゆきとしぶゆ
ゆきのびくゆうりゆうりゆ七月十二日又
十三日さかく東坂本とゐて京国へ
とんぐうりゆうりゆあちうんのきうとゆ
こしんやうを為とうけてるあいのり
えどうんひやうるくぞきこしし
かうし門ぐよ郎おどうれりどゐ
ゆりひうん市くゐ屋ゆきうりいゆハ
ゆくし門ゆ郎ホ月ゆるこゆんそのこ
ゆうゐ道江国筆浦といゆとこうゐ
為義ゆうよゆうゆうなれかりゆんゆう

むくゆくりぐようれくうんうどゐきう
くりあう勝ゆゆきあひくきむぐくゆ
たうひてを負きどとかうりてひよ
うりそくくうくうこれうゐとむゐいこう
のりりてうるぐふ月物行へりどゐうる
ゆどうゆうゆうきて出ゆ京ゆりてん者り
うれ義ゆゐ出ゆやのどうふゆうゆうまい
とくうんれうり為義入道うるうりん
ゆくくうりとくりりてのうとうくこう
ゐりよ入ゆゐゐりうれどるゐしゐ
くうくこうやうゆうゆう人とくゐへい

屋いきとうんとくとかいまて子ということ為
義の名かうぞうひてけり
あださゆきたいよとびまとうのうまで
ふるくいう為ぞいれ名ぎうりけり
もりつまあとれお現ぎしてうろぞあの他
と三ぎりうりうしの通ハ十ぎのう
仰文とんのうこうしつふとたいうこし
て古墓厨ようりいのうしてうこ屋
よこせしんつく牧方人のうものとおいて
て廿三の年一四下のうんびいしうう是
とうりこうのうんしやうこそきうんし

為義三ものつまうとのそこ中いうまの
岡てもしあのうれいきうう現ぎられ
うれぐせんぞう三ちうう岡てうこ
のうふとなうしてもうのうふ為義ぐ
うふ京吉の岡れうものゆい殺文い
よ入道ふうとうう九岡のいうこととうと
いものうふうふうう屋ちのうふとな
うて作られうまでうあうしぐ三ちう
ふとうあうこで屋うれうふとなくく
うふうせんとそ廿三ちう六十三中で八池
下のうんひいしあそぞんうう為朝ぐ

結面のひろさてあらう
はかりそよだれたつ人のまとをたち
のうくれるあらさぬとんつみたるひる
神代たかりくり結あハたるまう
おうてはわうてんまく東国へ下る
ゑりゝ今宵のうつせんまうあひハい
ねわもぐらしさうの国へいこう
ゑのとけうあうさしのまよい
ちうけうのちうじたけ一ゆく
ゆゝ面別面あうちはけこれうあうされ
て大段大原よりて出ようとゆ和ち
ちうゆうこんさいちうさ信濃五信て
むちう人ようなきれやうりのとうふ
めんくゆ宿とるはまてくゆ宿ゆ
とかわくうあゆけうこん
のとけれるいかとかうさ七郎
ねようう通とうあさ七郎九九九
ゆかうちうかとしあこせさくうゆ
くようこうとくて入ゆとかうこん
ようとあうさいてせて和けこう
けん仕こんようゆふうとひうつき
むゝ月色いのまうさうこうあさ

のふ相ゐの新よう
分と思いたんとうとかうして百ちん
ふらすふるもみあふみかたへ
来てゆくくくるこんやあち
へ通のうまひろろいさとうくさ
ろう時ごろ法華経のうふうさ
まてといの年老れたちへいりたとの
ごろいりけまてはいうこ奥ろうろ
さひとうまうへ入るいりてさの
ちんとゆりそうとのうたとくは
まそこるうへ通二人とうまし

ちこうろうまうあるくれるを
ろうへきこのひくうりともひよれて
やよいいんとゆりへそこそれさて
りはうしきはけうまうけうみともいさ
いこのはうはけうまうちんとあうち弟
はうろうもりまそこりひろうよ大
ろけのうあのりうりてうまのたう
いくくくとまりくいろいむうい
のやうちづらんれのうきひうれと
まうこれこゆうりけり入通さすぶ
ろどものうこうれしくてうろうをいふ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]